

連載

7

# 在宅医療奮闘記

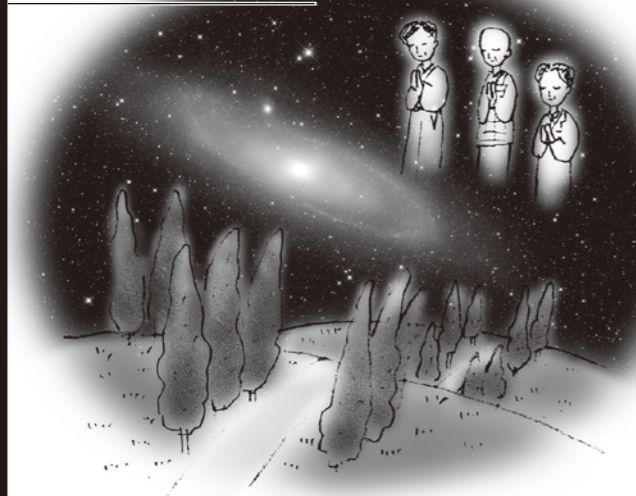
平成7年より  
在宅を開始した

私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック院長

橋本 満義 (62歳・内科)

## 『看取り』のお話



人生には終わりがあります。医療技術だけでは充分ではありません。国策として、自宅(施設)での人間らしい『看取り』という考え方が今後の主流です。(けっして病院に入院したままではない。ただし例外はもちろんある…)

今までに神社の元宮司さんや寺院のお坊さん、また病院の元院長先生の『看取り』をお願いされる事がありました。前者は“求道者”であり、後者は人生経験豊富な医学的にも優れた大先輩であったため私にとっては、大変なプレッシャーとなりました。

在宅医療を行う医師は、患者さんの最期まで、ご本人やご家族に不安なく過ごしてもらわなければなりません。

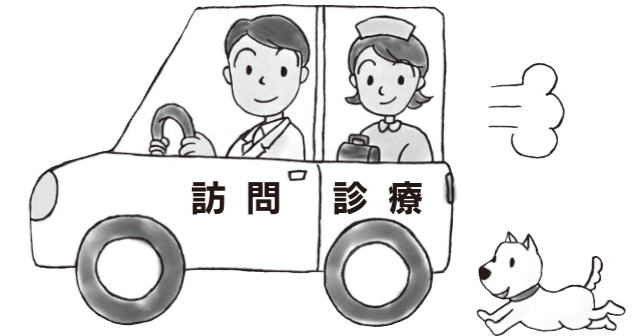
「～はたして人間はどこから来て、どこに行くのだろう～」と自問自答することになります。ビッグバンの宇宙から波動(魂)により、地球そして生命体(DNAやRNAなど)が生まれ、老化が進んで『看取り』となり、そして死後、魂(波動)となり宇宙に帰する。

そういった視座(死生観は『身土不二』)で、個人個人の仏教・宗派、そして神道(日本古来の伝統)を科学し、認め、大切に思いながら、しっかりと『看取り』に対座していくことが大切です。

「あまり悲しみすぎる事はありません。いずれまた天国で会えますよ。」

「お医者さんが来てくれる」

質の高い在宅医療・看護・介護を『千舟町クリニック』は目指しています。



機能強化型・有床 在宅療養支援診療所

**(医)東西会 千舟町クリニック**

松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788

<http://www.touzaikai.jp/>